

平成22年11月26日

政 務 調 査 報 告 書

栗山町議会議長 橋場 利勝 様

栗山町議会議員 蛇谷 富士男

このたび、政務調査のため出張しましたので次のとおり報告します。

日 時	平成 22 年 10 月 20 日 9 : 30 ~ 4 : 30
視 察 先	島根県 海士町
視察項目	最後尾から最先端へ
対 応 者	山内直雄 町長
報告事項	環海の島根半島沖合約60kmに浮かぶ隠岐支諸島の四つの有人島の二つの中ノ島を「海士町」とし、島1町の小さな島(面積33.52km²、周囲89.1km)である。 海士町は地域再生の町。次々と若者が「土」でやって来るのはなぜか「若者」と「一丸の変革」、過疎化と高齢化、景気後退で地方の疲弊が進み、この自治体も経費と人件費削減に躍起だった。海士町は違うところは、地域に、未来への希望を与えたことでは、町長の指導のもと、これまでになく費用を「未来への投資」に振り回けた。移住者に月15万円を支給する、研修制度を創設、低廉賃の定住促進住宅を整備した。 職員の給与カットをむしろ流着材料にして50%カットにすれば、何か生き残る必要はと逆に活力がわくんです。職員の士気の高さに驚いた。 島の生き残りを賭けて始めた戦いに若者が共感、交流から新しい価値や活力が生まれた。国の補助金や公共事業に頼らない再生手法は、実に斬新であり、離島の底力を見る思いでした。 町長室には、日本列島もアツマ大陸に対しては、離島です。しかしこの海士地図を見ていると、オホロベのようなもの日本列島を隠岐という支島で支えているような気がするだろうと山内町長が解説する。 海士町は、2004年に「自立促進プラン」を策定し、町長50%、職員30%の給与カットを以てする大胆な行財政改革を奥底に浮いた経費を利用し産業振興と移住促進に「未来への投資」代が町にも新たな活力が生まれ、町民が一休感が生まれ、昔ながら「地味な道とは？」

日 時	平成 22年 10月 22日 10:00 ~ 12:00
視 察 先	鳥取県西伯郡日吉村
視察項目	村民参加、情報公開、コミニティ計画、自治基本条例、第6次総合計画
対 応 者	課長 高田直人 主事 尾東雄輔 主査 福井真一 議会副議長、山路有 事務局長 加藤文康
報告事項	日吉津村は鳥取県の西北端部にあり、東は西日本一を誇る国立公園大山の勇姿を望み、西は本県三大河の日野川が流れます。箕敷屋平野の一角を占め、北は日本海に面し、ぐるりを米子市に囲まれています。 気候温和で、日野川下流東岸一帯の平坦地で、田畑と宅地を形成しています。 平成15年に住民投票の結果、単独継続を決定し、地域コミニティ計画づくりを中心に「参画」と「協働」の村づくりを進め、地方分権推進中「地域のことは地域で決める」という自治の本旨に基づき、多様化・高度化する村民ニーズに対応するため、自治の基本原則、村民参画のあり方、村民と行政との協働による村づくりのルールを定め、自治基本条例を平成21年4月に施行。 全11章、38条の条文からなり、村の最高規範と位置づけられ、住民主権、人権尊重、情報の共有、協働と参画の4つを基本原則とし、現在は常設型住民投票条例の設置などの取組みを進めています。